

2020 年度業務実績報告書

提出日 2021 年 1 月 20 日

1. 職名・氏名 准教授・中井美和

2. 学位 学位 博士（経済学）、専門分野 環境経済学、授与機関 神戸大学、授与年 2015 年

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 （1）環境経済学（2 単位）3、4 回生 （2）演習 I（4 単位）3 回生 （3）外書講読（2 単位）2 回生
② 内容・ねらい （1）経済学の視点から環境問題が発生するメカニズムを説明し、また、環境問題の解決のために講じられている経済学的アプローチを紹介すること。 （2）卒業論文執筆に向け、研究力の基礎を身につけること。 （3）英語で文章を読むことに慣れること。とりわけ環境経済学の専門用語に慣れることを目的とする。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 （1）毎回小テストを実施し、また翌週の講義冒頭で小テストの解説を丁寧に行うことで、授業内容の理解・定着に努めた。 （2）学生にとって初めてのゼミが遠隔授業で行われることに不安を覚えていた様子であった。そのため、授業中そして授業以外でもメール等を用いて、積極的にコミュニケーションを取るよう心がけた。ゼミ生は二人であったため、発表頻度がどうしても高くなり、ある程度の負担はあったかと思うが、一年を通じて熱心に取り組んだ様子が見られた。 （3）履修生の英語の能力は元々高かったが、常に自信がない様子が観測された。全員熱心にレジュメ作成に取り組んでいたこと、そして、彼らの日本語訳のレベルが高いことを積極的に褒め、モチベーションを高めるよう心がけた。また、環境問題に関するトピックを毎回用意し、授業後半 20 分ほどはそれらについて全員でディスカッションする時間を設け、英語の能力を高めるだけでなく、環境問題への関心および知識についても向上できるよう工夫した。
(2)その他の教育活動
内容 学外大学院生への研究指導 - 対象：早稲田大学大学院経済学研究科の博士課程の大学院生 - 方法：一ヶ月に一回程度、zoom やメールを利用した博士論文指導を実施 - その他注意事項：副業ではない

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①著書	【0 本】
②学術論文（査読あり） Omura, A., Roca, E., <u>Nakai, M.</u> , 2020. Does responsible investing pay during economic downturns: Evidence from the COVID-19 pandemic. <i>Finance Research Letters</i> 101914. (2020 年 12 月掲載) Kikuchi, Y., <u>Nakai, M.</u> , Kanematsu, Y., Oosawa, K., Okubo, T., Oshita, Y., Fukushima, Y., 2020. Application of technology assessments to co-learning for regional transformation: a case study of biomass energy systems in Tanegashima. <i>Sustainability Science</i> 15, 1473-1494. (2020 年 3 月掲載)	【2 本】
③その他論文（査読なし）	【0 本】
④学会発表等 Nakai, M. Do Households in Developing Country Choose Energy Efficient Air Conditioner?: Evidence from the Philippines. Ateneo Department of Economics and ACERD Seminar Series. 2020 年 11 月開催. Nakai, M. Individual Sustainable Investment in Japan. 2 nd Workshop on Empirical Sustainable Finance, University of Kassel. 2020 年 10 月開催. 中井美和. Do Households in Developing Country Choose Energy Efficient Air Conditioner?: Evidence from the Philippine. 環境経済・政策学会, 2020 年大会. 2020 年 9 月開催. 中井美和. Do Households in Developing Country Choose Energy Efficient Air Conditioner?: Evidence from the Philippines 富山大学研究推進機構極東地域研究センター・NIHU 北東アジア地域研究プロジェクト, 第 3 回ワークショップ. 2020 年 7 月開催.	【4 件】
⑤その他の公表実績	【0 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
【学外】 中井美和（研究代表者）. 日本学術振興会 科学研究費 若手研究. 小中高生のエネルギーリテラシー評価手法および教育効果分析手法の構築. (最終年度) 中井美和（共同研究者）. 日本学術振興会 科学研究費 基盤研究 C. U 理論に基づいた自律性支援型 ESD 授業における動機づけ評価指標の実証的研究（代表：金沢大学 河内幾帆）. (初年度) 中井美和（共同研究者）. 日本学術振興会 二国間交流事業. 環境保全行動の日独比較:気候変動対策と ESG 投資の視点（代表：早稲田大学 有村俊秀）. (来年度より開始)	
【学内】	
中井美和（研究代表者）. 戦略的課題研究推進支援. 外的要因が ESG 経営および投資に与える影響. (初年度)	
(3)特許等取得	
該当なし	
(4)学会活動等	
「北陸環境経済学ワークショップ」の設立、開催、研究発表。研究発表は以下の通り。 中井美和. Individual Sustainable Investment in Japan. 北陸環境経済学ワークショップ. 2020 年 11 月 6 日, 福井県立大学にて開催.	

5. 地域・社会貢献活動

⑦その他

- ・ 名称：げんでんネクサス委員
- ・ 活動内容：懇談会への出席、懇談会内での意見交換、施設見学など
- ・ 主催：日本原子力発電株式会社
- ・ 活動期間：2020 年 10 月～現在に至る
- ・ 活動場所：ASOSSA、日本原子力発電所株式会社関連施設など

6. 大学運営への参画

(1)補職

該当なし

(2)委員会・チーム活動

経済学部 オープンキャンパス委員

(3)学内行事への参加

オープンキャンパス

(4)その他、自発的活動など

該当なし